

## 参議院選挙

思い起こせば、3年前の参議院選挙に自民党が大敗したことが現在の自民党の没落と民主党政権の誕生につながった。安倍さんは「辞める」必要がない、と当時書いたことがある。なぜなら、民主党をはじめ政界をゆるがせている金と政治の問題、なかんずく社会保険庁のちんたらした仕事によって国民の怒りが爆発したためであるが、これは何年にもわたって役人仕事の濁りが現れた(バレた)だけで、安倍さんの与り知らぬことである。この安倍政権のときに重要な法案をいくつか国会を通過させ、ここ数人の総理の「怠慢」ぶりからみて傑出している。朝日新聞など、反自民というより反安倍に凝り固まっていて公器とはとても思えない偏向ぶりだった。まるで機関紙のような反米親中親韓をつらぬいてきたけれども事実はいくらゴマを摺っても反日は変わらない。・・・それでも今の民主党のような短時間でろくに討論もせずに法案通過させるような卑怯なことはしなかった。最終的には「野党との対話ができない」と言って辞任した。自民党もあまり賢くないし、先を見据える度量もなかった。

2年後衆議院選挙で民主党の大躍進があり、(このあたり、日本人の知的レベルの低下が問題であったのだが) 政権の交代に到った

ものである。では誰が総理になるというのだ。

さらに1年後の参議院選挙では、本来政治をするとか語るべきではないのまで当選させて、その結果の今回の惨敗でもあるだろう。

で鳩山が総理になったが、何一つ大事な法案を通すこともできず、世界中の笑い者になって結局政権を投げ出さなければならなかった。まあ、時間の問題だったのだが。支持率80%が半年で20%を割るという株価なみの下落率ではあった。次の菅になると、国民・日本人は少しも懲りずにまた70%を超える支持率である。所詮同じ穴の貉である。何ヶ月で下がるだろうと思っていたら、わずか1ヶ月余りに参議院選挙で、民主党の惨敗である。(まだ民主党に投票しているのが大勢いるのだが、)選挙前の消費税問題など語るたびに意見がちがっている。確固たる信念がないからである。1年後をみてみたい。

いったい、この国をどのようにしたいのか全くわからない。国防の危機感の欠如、倫理観の麻痺。野党なら遠吠えですんだが、今後は首相の一言々々が日本の、日本人の総意とみなされるのである。口の軽いのはあかんわ。終始一貫していない、その場凌ぎではなあ。

さらにマニフェストに固執したためあちこちに齟齬を来たし、すべて中途半端に終わり、重要課題の(唯一とっていい評価できる

課題) 事業仕分けでは、何が重要なことであるか認識できないのが  
いて・・・もっとも多額の無駄遣いには手をつけることなく、云々。

教育のところでいずれ書くつもりであるが、日教組もだらしのない  
もので、教師自ら考えて判断を下したのではなかったか？ 自分で  
判断できないようなのが子供たちに「清き一票」などと教えるので  
ある。自分たちは「清き」ではなかったのに、全然説得力がない。

(少なくとも医師会推薦の候補は 3 人とも落選した。) 山梨県教組  
は、またあんなのを当選させて恥ずかしいと思わないのであろう。  
人口が少ないからね。一方神奈川県は人口が多いから、県教組だけ  
ではたりなかったのやろね。現職の法務大臣が落選した。そらそう  
や、仕事をしなかったのだから。現職が落選するというのは現内閣  
が信用されていないことで、あるいは法相そのものの人格に問題が  
あったのかも知れない。現に死刑執行書に署名をしなければいけない  
のに (これは法に定められたもので、死刑廃止論者なら法相に就  
任すべきではない。そんなのは自民党にもいたし、新聞など 3 人  
5 人と死刑を執行すれば「殺人鬼」のような表現をするのだから。  
・・・新聞も低レベルになり、記者も編集者も狂ってしまってい  
る。物事の軽重がわからなくなっている。小生ここ数年新聞の宅配

を止めているが、まったく痛痒を感じない。

で、件のおばあさんは、9月まで任期がある。辞退することなく、何をトチ狂ったか突然死刑を執行させた。しかもそれを「見学」までしたという。これには本来の仲間である死刑廃止論者からも非難轟々で、おまけに死刑継続論の人たちからも総スカンをくらう始末。蝙蝠みたいなもので世に身体の置き場がなくなってしまった。貧すりゃ鈍するという見本。民主党的といえはそうなのだが。・・・この人は人生をどのように送ってきたのだろうか？ 精神病理学的な興味に駆られる。

ボクは安倍さんに期待しているのであるが、もう少し時間がかかるだろう。安倍さんの話で胸がスッキリした話をひとつ。中国を訪問したとき、「毅然とした態度」に中国側が慌てたという。中国の「パシリ」のような自称政治家や外交官に根回ししたつもりができていなかっただけなのであるが、詳細は新聞記者の話のときに書く。

今回も奇妙な候補者をいろんな党が立候補させたが、野村の嫁で懲りたと思っていたら、少しも学んでいない。まともな姿勢の人が当選するのは賛成である。そうでないのは消えてもらうべきだろうし、出てくるべきではなかったのである。 2010.07.25